

ドネーションパーティ ちばのWA2015 ～共感を寄付に～

「社会の役に立ちたい」「活動には参加する時間やエネルギーはないが、寄付で応援したい」
…ちばのWA地域づくり基金は、市民コミュニティ財団として2012年に設立し、地域課題解決の取り組み事業への寄付募集と助成をしています。現在ちばのWA地域づくり基金事業指定助成プログラムで寄付募集をしている9団体の代表が、地域社会の課題解決に挑むチャレンジを多くの人に伝え、共感の輪を広げる機会としてドネーションパーティーを開催します。

★日時 2015年2月8日(日) 13:30～17:00 (13:00開場)

★会場 ホテルメイプルイン幕張(幕張本郷駅徒歩3分)

★参加費 2,000円(ドネーションチケット代込み) ★定員 100名

★寄付募集団体

- ✦「アレルギーを持つ親子が安心して外出できる『ノンアレカフェ』開催事業」
NPO法人千葉アレルギーネットワーク
- ✦「児童養護施設を退所する子どもたちの自立を支える『はばたき基金』」はぐくみの杜を支える会
- ✦「外国人の子どもたちの学びを支援する事業」 認定NPO法人外国人の子どものための勉強会
- ✦「病気と向き合う子どもが笑顔になる贈り物事業」 NPO法人子ども劇場千葉県センター
- ✦「長作に『明日の種』をまく畑再生プロジェクト2014」 企業組合あしたね
- ✦「発達障害を持つ青年の一人暮らし体験支援事業」 NPO法人ウィズ柏
- ✦「江戸時代の石切り職人たちが遺した『産業遺産』鋸山の登山道整備事業」公益財団法人金谷美術館
- ✦「『ただいま』『おかえり』という当たり前の会話を知らない中高生の、すべてを受け入れる居場所『ユースペース』運営事業」 NPO法人子どもの環境を守る会Jワールド
- ✦「社会において居場所を失った子どもたちを保護するための緊急避難場所『子どもシェルター』運営事業」
NPO法人子どもセンター帆希

★申し込み・問い合わせ：ちばのWA地域づくり基金
Tel 043-270-4640 E-mail info@chibanowafund.org

『おおなみ こなみ』第1回写真展～検見川発見 今昔～

漁師町だった検見川。50年前の埋め立てにより、町の風景は大きく変わりました。古き良き検見川、埋め立て後の新しい町。写真を見ながら、町の歴史や伝統、懐かしい思い出を語りませんか。



★日時 2015年2月1日(土)～2月28日(土)

★場所 多世代交流拠点『おおなみ こなみ』

★問い合わせ：『おおなみ こなみ』

Tel 070-2157-1673 E-mail ohnami2014@gmail.com

《編集・発行》

特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ(NPOクラブ) ■Tel:043-303-1688 Fax:043-303-1689
■〒261-0011 千葉県千葉市美浜区真砂5-21-12 ■E-mail npo-club@par.odn.ne.jp ■URL http://npoclub.com/
■団体会員 52団体・個人会員 90人 ■発行 1,000部 会員・県内市民活動センター・自治体等に送付しています。

News Letter



Vol.52
2015.02

特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ(NPOクラブ)

2014年度事業の柱は…地域づくりのため、課題解決のための取り組み

多世代交流拠点—おおなみ こなみの運営—

おとなも子どもも子育て世代も

少子高齢化、核家族化、コミュニティ崩壊…地域で安心して暮らしていくためには、どういった取り組みが必要でしょうか。

NPO クラブでは、年代を問わず、多様な人たちが交流し、それぞれが持っている強みを活かし合えるような『場づくり』が大切と考え、独立行政法人福祉医療機構からの補助金をもとに、多世代交流拠点『おおなみ こなみ』を千葉市花見川区検見川町に2014年9月にオープンしました。

オープンスペースです！

コミュニティセンター、公民館、図書館…地域には、様々な公共施設があり、多くの人たちが利用していますが、利用者間の交流があまりない、目的利用になっているので利用の使途が限られる、といった面があります。

約80㎡のスペースを仕切らずに、来所者同志の交流が自然にできるようにしています。大きなテーブルが1つと小さなテーブル2つを設置。講座や打合せ、おしゃべりに、食事に、制限を設けずに利用できます。

『おやこカフェけみがわ』

スペースの一角には、絵本300冊とベビーベッドを設置、近隣の方やNPOから寄付された玩具もあり、親子でゆったりと楽しむことができます。お母さんが講座に参加、子どもたちは隣り合わせのスペースで遊ぶ、といった風景が見られるようになりました。親子もそれぞれ楽しい時間を過ごす。子育てを楽しめる余裕が生まれています。

様々な世代が楽しめる講座やまちづくり講座を開催「手巻き寿司」「おいしい珈琲の淹れ方」「編み物」「妖怪体操」「貯筋体操」「コーラス」「アートフラワー」…『ご近所さん』も講師になります。赤ちゃんをおひざだっこしたママと高齢の方が大きなテーブルを囲んで談笑する『ホッとスペース』が生まれています。

福祉事業所の物品や JFSA(日本ファイバーリサイクル連帯協議会)のリサイクル衣料を販売

県内10ヶ所の福祉事業所の物品の代行販売を行っています。クッキー、ジャム、みそ、漬物、コーヒーといった食品は、市販品に引けを取らない美味しさ。添加物不使用で、安心して食べることができます。

NPO法人JFSAは、日本国内とパキスタンで古着や毛布などのリサイクル(リユース)事業を行い、パキスタンのカラチ市内のスラム地域にある無料の学校「アル・カイールアカデミー」の自立運営を支援しているNGOです。現在は年間で約80トンの古着や毛布などをパキスタンに輸出しています。『おおなみ こなみ』ではJFSAのリサイクル衣料の代理販売を行っています。



多世代交流拠点「おおなみ こなみ」

千葉市花見川区検見川町3丁目159-2

火曜日～土曜日 10:30～17:00 オープン

Tel 070-2157-1673

四街道市みんなで地域づくりセンター事業

「チームよつてら」と「コラボ塾」

みんなで地域づくりセンターは、地域づくりグループを生み出します

公民館の主催事業 小学校の長期休みの「寺子屋」に、センターは 2012 年のスタートから企画・運営に関わり、学生スタッフのコーディネートを行ってきました。大学生・高校生スタッフは、小学生にとって企画と親しみやすさが魅力。しかし、卒業によりメンバーが変わるため継続性が課題でした。学生コアメンバーがミーティングを重ね、市内の高校や近隣大学でメンバーを募集し、「チームよつてら」を立ち上げました。現在、登録は約 60 人。市内小学校の学習支援ボランティアとも連携。昨年 10 月からは、四街道公民館で、月 2 回土曜日の「よつかいどう寺子屋」をスタートさせ、子どもの居場所となることを目指しています。



また、センターでは、市のみんなで地域づくり事業提案制度「コラボ四街道」への提案につなげる、連続講座「コラボ塾」を開いています。地域の課題を解決するための「アイディアの種」を考え、互いに意見を出し合い、企画提案書作成、プレプレゼンを経て、「コラボ四街道」にチャレンジします。センターでは、講座以外の場でも相談を受け付け、事業開始後は広報協力などのサポートを行います。



チーム「よつてら」は、学生スタッフを募集しています！

浪江町復興支援員支援事業

福島県浪江町から避難している被災者をサポートします。

東日本大震災から 3 年 10 ヶ月が過ぎた今も…

千葉県には 600 名あまり、東京都には 900 名あまりの浪江町民が避難し、暮らしています。福島第一原子力発電所の事故により、「帰りたいとも、帰れない」状況が続いています。

浪江町では、庭のある一軒家に三世代、四世代同居で暮らしていた家族が狭い借り上げ住宅で世帯ごとに暮らしています。高齢になっての避難生活は身体的にも精神的にも厳しいもので、近所との交流もほとんどなく、孤立化している人も少なくありません。

復興支援員千葉県駐在として、暮らしへの不安に対応



東京電力からの賠償はあっても、以前と同じ暮らしは戻ってきません。住まいのこと、仕事のこと、健康のこと、これからの暮らしについての不安は大きくなっています。NPO クラブの事務所内に、復興支援員ブースを設置、4 名の支援員が役場の職員として、個別訪問、交流サロンの開催等を通して、町民の不安を軽減するための支援を継続しています。

[浪江町復興支援員千葉県駐在] Tel 080-6294-5961

福島県ふるさときずな維持再生支援事業

県内支援団体による情報交換会の開催

東日本大震災による東北 3 県（岩手県、宮城県、福島県）からの避難者は 3,762 名（2014 年 12 月末現在、うち福島県から 3,305 名）、県内各地で、借り上げ住宅で避難生活を送っています。NPO クラブでは、千葉県内で被災地、被災者支援を行っている市民活動団体 10 団体、大学、臨床心理士会、社会福祉協議会、中央ろうきん、千葉県、山武市等をメンバーとした「情報交換会」を 2 ヶ月に 1 回開催しています。

避難者の状況、必要とされる支援の内容について、情報交換、課題共有する場となっています。

震災を忘れない！東北応援イベント『縁 joy 東北 2014』



情報紙「縁 joy」の編集、発行

避難者を対象にした交流会やサロンの開催、バス旅行といった支援団体主催の企画情報や「避難者の今」を伝える取材記事等を掲載した情報紙を毎月 1 回編集、2500 部発行。被災地の自治体発行の広報紙に同封して、県内で暮らす東北からの避難者全世帯（一部自治体を除く）に送付しています。県内の市民活動支援センターや社協ボランティアセンターにも送付、配架しています。

生活再建への福島への道をさぐる『福島へのバス旅行』



「浪江町仮設住宅」にて。入居者との記念写真

震災を忘れない、避難者交流の場の設定、物産の販売を通した被災地の復興支援をテーマに、2014 年 12 月 7 日（日）に、千葉市きぼーるにて、東北応援イベントを開催しました。

当日の来場者は 400 名、関係者 100 名。ステージでは、浪江町出身の演歌歌手・原田直之さんの歌声が響きました。被災地役場職員との情報交換、避難者同士の交流もでき、ふるさとへの思いを確認する場になりました。



2014 年 12 月 14 日～15 日に、避難者 13 名、支援者 15 名で、福島へのバス旅行を実施しました。

いわき市にある復興公営住宅の見学、浪江町の視察(原発事故による避難区域となっており、現在は無人状態)、南相馬市に昨年 2 月に建てられた「浪江町の仮設住宅」の見学&入居者との交流を実施。参加した支援者からは「有意義でした。現地を見ないとわからないことがたくさんありました」との感想が届きました。